飛騨地方の気候的特性

岐阜県立斐太高等学校　中田　広孝

日本列島のほぼ中央部，3000m 級の山々に囲まれている飛騨地方を中心に南北，東西で比較することで気候的特性を知ることができる。2つの特性を冬の降雪と台風被害の面から紹介したい。東経 137 度付近の 3 地点，北から石川県輪島市，高山市，愛知県田原市と東隣の長野県松本市の雨温図や日照時間を確認してみる。まず，冬季の降雪は西高東低の気圧配置による北西季節風が日本海（南からの暖流＝対馬海流）から水蒸気を吸い上げ，その雪雲は飛騨山脈にぶつかり豪雪となる。飛騨地方にはおおよそ乗鞍岳，位山，鷲ヶ岳を結ぶ線に富山湾（日本海側）と伊勢湾（太平洋側）の分水嶺がある。特に積雪は分水嶺より北で多い。2 月の雨温図の傾向をその 3 地点で確認すると，この気象条件の時の日本海側と太平洋側の特徴を読み取ることができる。また，豪雪は飛騨山脈の西側で起きているが，長野県松本市では寒冷ではあるが積雪はほとんどない。生徒には雪を見上げながら南北の 2 地点や東の松本について想像できるよう指導している。（輪島＝強く冷たい北西風と雪雲が急速に発生し内陸に向かう，落雷がある・高山＝しんしんと雪が降る・田原＝晴天，菜の花が揺れている　松本＝日照あり，寒いが積雪少，飛騨方面を眺めると曇天）

もう 1 つは台風の進路による特性がある。台風は日本列島付近では進路を北東に取ることが多い。その中心が日本列島のどこに上陸するかは最大の関心事である。飛騨地方の場合おおよそ飛騨山脈を中心に東側となるか，西側となるかが大きな問題である。つまり，台風の中心へは南東から暖かく湿った空気が大量に運ばれ，暴風雨となる。上陸が東側となった場合，それらの雨雲は進行とともに赤石山脈，木曽山脈，飛騨山脈に遮られ飛騨地方への暴風雨の勢力は弱まることになる。一方西側に上陸した場合は飛騨地方の南側には大きな山脈はない。令和元年 10 月に多大な被害をもたらした台風 19 号の進路は東側のコースを取り，隣県長野県に多大な被害をもたらした。一方，飛騨地方には大きな被害は見受けられなかった。

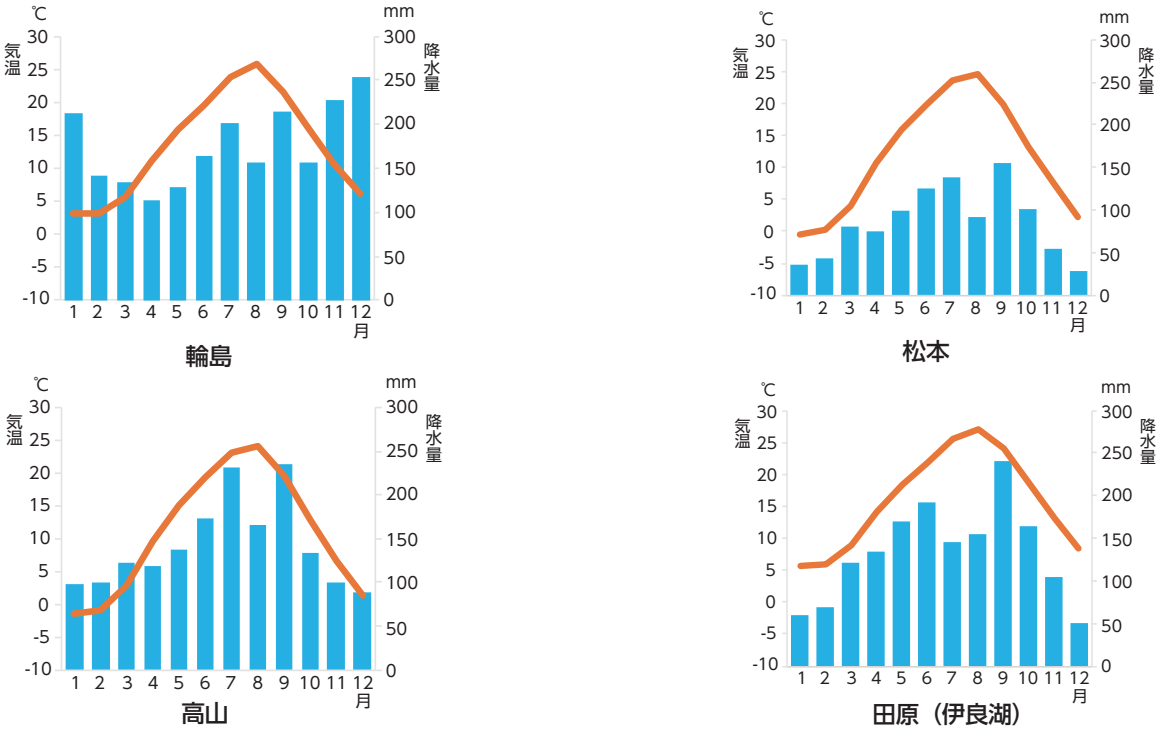

図1 各地の雨温図（1981 年～ 2010 年平均，気象庁データより作成）

表1 各地域の月別日照時間（1981 年～ 2010 年の平均）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
輪島	43.3	64.5	127.4	187.5	201.9	157.2	156.1	206.8	138.2	142.0	88.4	51.6	1564.9
高山	95.6	112.8	150.9	174.6	181.3	143.0	146.4	180.5	124.1	125.8	98.9	89.0	1623.7
松本	170.7	163.5	185.0	202.1	209.0	163.6	171.3	205.4	141.8	159.9	159.2	166.0	2097.5
田原（伊良湖）	180.0	175.3	192.7	198.1	197.4	156.8	192.6	233.3	164.3	166.8	164.8	180.2	2202.0

気象庁データより作成（赤字は最高値，青字は最低値）